

39th IMSUT Founding Commemorative Symposium

IMSUT Go Go! Leading The Charge into a New Era of Medical Science



医科学研究所 45周年
伝染病研究所から 120周年

50周年 / 125周年に向けて
「若い息吹と医科学への挑戦」

東京大学医科学研究所は今年6月1日に、創立45周年、その前身の原点である伝染病研究所（初代所長：北里柴三郎）の創設以来120周年を迎えた。その記念すべき年の創立記念行事として、関連行事等に新趣向を加えた創立記念行事が執り行われた。新趣向のひとつは、英語中心としたポスター等の意匠変更、創立記念行事の最後を飾る懇親パーティーの病院棟8階での実施である。

2部構成の最初はポスター中心のセッションで、創立記念日前日5月31日にポスター発表者61名による1分間のフラッシュトーク。このスタイルも大分定着し、若手中心の発表者が、1分をそれぞれに有効に活用して、ポスター内容を紹介。翌創立記念日にポスター発表が行われ、教員による投票、記念行事最後のパーティーでのベストポスター賞発表へと続いた。今年は2位、3位が2名ずつで、計5名が表彰された（ベストポスター賞は医科研Webサイトに別途掲載）。

創立記念日のシンポジウムは、清野所長による開会の辞、4人の医科学研究所新任教授、川口寧教授、武川睦寛教授、長村文孝教授、藤堂具紀教授による講演、審良静男教授（大阪大学）、中村祐輔教授（医科学研究所、シカゴ大学）ご講演、最後に村上副所長による閉会の辞、の構成で行われた。

清野所長は就任以来、5年後に向けた「IMSUT one to GoGo」計画を掲げて医科学研究所を牽引されている。所長による開会挨拶は、医科学研究所教授に新任となった4教授（シンポジウム講演者）、国際粘膜ワクチンセンターに新任となった長谷耕二特任教授、植松智特任教授の紹介を含め、今回の創立記念シンポジウムのサブタイトルである「若い息吹と医科学への挑戦」が、GoGoに向けての意欲的な歩みであることを印象づけるものであった（Webサイト所長挨拶に全文）。



ポスター会場



● シンポジウム



川口 寧 教授
(ウイルス病態制御分野)

ヘルペスウイルス感染の分子基盤と
感染制御への応用



武川 睦寛 教授
(分子シグナル制御分野)

MAPキナーゼシグナルによる細胞
運命決定機構と癌におけるその破綻



長村 文孝 教授
(先端医療開発推進分野)

トランスレーショナル・リサーチの
開発推進:シーズの花を咲かすように



藤堂 具紀 教授
(先端がん治療分野)

がんのウイルス療法の臨床開発



審良 静男 教授
(大阪大学 免疫学フロンティア
研究センター)

自然免疫と炎症応答



中村 祐輔 教授
(ヒトゲノム解析センター,
米国シカゴ大学医学部)

ゲノム医科学から
がん治療薬の開発を目指して